

大学教育改善のための組織的取り組みに関する教員調査・集計結果

実施期間：2022年5月30日～6月30日

回答方法：ウェブまたは郵送

サンプル数：560 大学 3,360 名

回答数及び回答率：

全体	1,721 票 (51.2%)
国立	262 票 (53.9%)
公立	180 票 (50.8%)
私立	1,277 票 (50.6%)

※無回答 2 件

回答方法別回答数：

郵送回答	672 票
ウェブ回答	1,049 票

※以下、合計が 100%にならないのは無回答を除いているため。

問 1 先生ご自身と先生がお勤めの大学・学部について教えてください。(〇は 1 つずつ)

a. 職階	1. 教授 <u>(64.4%)</u> 2. 准教授 <u>(22.3%)</u> 3. 講師 <u>(9.1%)</u> 4. その他 <u>(4.1%)</u>
b. 年齢	1. 20 歳代 <u>(0.2%)</u> 2. 30 歳代 <u>(9.9%)</u> 3. 40 歳代 <u>(25.3%)</u> 4. 50 歳代 <u>(40.0%)</u> 5. 60 歳以上 <u>(24.5%)</u>
c. 性別	1. 男性 <u>(65.9%)</u> 2. 女性 <u>(32.7%)</u> 3. その他 (回答しないを含む) <u>(1.2%)</u>
d. 現勤務先での勤務年数	1. 3 年未満 <u>(11.3%)</u> 2. 3 年以上 5 年未満 <u>(10.7%)</u> 3. 5 年以上 15 年未満 <u>(38.2%)</u> 4. 15 年以上 <u>(39.7%)</u>
e. 設置形態	1. 国立 <u>(15.2%)</u> 2. 公立 <u>(10.5%)</u> 3. 私立 <u>(74.2%)</u>
f. ご所属学部の主な分野	1. 人文科学 <u>(15.9%)</u> 2. 社会科学 <u>(21.4%)</u> 3. 理学 <u>(3.7%)</u> 4. 工学 <u>(10.2%)</u> 5. 農学 <u>(5.2%)</u> 6. 医歯薬看護・健康 <u>(26.7%)</u> 7. 教育 <u>(9.3%)</u> 8. その他 <u>(7.6%)</u>
g. ご所属学部の専任教員数	1. 20 名未満 <u>(14.3%)</u> 2. 20-50 名未満 <u>(45.3%)</u> 3. 50-100 名未満 <u>(26.1%)</u> 4. 100 名以上 <u>(14.1%)</u>

問 2 先生の学部あるいは学科では、以下の取り組みが行われていますか。

(〇は 1 つずつ)	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
成績評価に関し、大学や学部・学科で設定したルール・ガイドラインがある	<u>(38.5%)</u>	<u>(43.2%)</u>	<u>(15.2%)</u>	<u>(3.0%)</u>
教員相互の授業参観を行っている	<u>(21.3%)</u>	<u>(26.4%)</u>	<u>(28.6%)</u>	<u>(23.5%)</u>
順次性のある体系的カリキュラムを編成している	<u>(45.0%)</u>	<u>(47.6%)</u>	<u>(6.2%)</u>	<u>(0.9%)</u>
学部長等のシラバスチェックがある	<u>(40.6%)</u>	<u>(35.2%)</u>	<u>(16.6%)</u>	<u>(7.4%)</u>
学習成果の測定を目的とした共通テスト (外部業者や学内で開発したテスト) が利用されている	<u>(21.4%)</u>	<u>(25.7%)</u>	<u>(23.4%)</u>	<u>(29.3%)</u>

教育改善に対する学内予算の措置がある	<u>(20.6%)</u>	<u>(43.7%)</u>	<u>(25.7%)</u>	<u>(9.6%)</u>
教員採用や昇任の際に教育能力を重視している	<u>(15.8%)</u>	<u>(48.8%)</u>	<u>(28.5%)</u>	<u>(6.3%)</u>
教員が協力して教育改善を進める話し合いの機会が設けられている	<u>(26.1%)</u>	<u>(52.1%)</u>	<u>(17.8%)</u>	<u>(3.9%)</u>

問 3 先生の学部あるいは学科での 3 つのポリシーの実態についてお聞きます。

(○は1つずつ)	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
ディプロマポリシーに応じて教育方法を選んでいる	<u>(27.7%)</u>	<u>(57.8%)</u>	<u>(10.7%)</u>	<u>(1.5%)</u>	<u>(2.3%)</u>
ディプロマポリシーと評価の在り方は整合的である	<u>(22.1%)</u>	<u>(57.2%)</u>	<u>(14.8%)</u>	<u>(2.0%)</u>	<u>(3.7%)</u>
アドミッションポリシーは入試形態と紐づいている	<u>(28.6%)</u>	<u>(53.1%)</u>	<u>(12.3%)</u>	<u>(2.8%)</u>	<u>(3.1%)</u>
ポリシー見直し時にカリキュラムを改訂した	<u>(23.4%)</u>	<u>(42.2%)</u>	<u>(17.3%)</u>	<u>(4.9%)</u>	<u>(11.9%)</u>
カリキュラム策定時にポリシーを参考にした	<u>(28.8%)</u>	<u>(50.4%)</u>	<u>(9.6%)</u>	<u>(2.6%)</u>	<u>(8.3%)</u>

問 4 学生の学習成果を把握することが求められていますが、先生はどうお考えですか。

(○は1つずつ)	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
学生のアンケート結果は教育改善に役立っている	<u>(27.5%)</u>	<u>(56.0%)</u>	<u>(13.9%)</u>	<u>(2.5%)</u>
授業評価などの結果をふまえて授業の内容や方法を変えている	<u>(34.6%)</u>	<u>(56.2%)</u>	<u>(8.0%)</u>	<u>(0.9%)</u>
ポートフォリオ等の学生の学習進捗管理システムは有効な仕掛けである	<u>(12.8%)</u>	<u>(46.0%)</u>	<u>(32.1%)</u>	<u>(8.9%)</u>
4年間の目標としての学習成果を提示することは大学の責任として重要だ	<u>(34.1%)</u>	<u>(53.2%)</u>	<u>(10.3%)</u>	<u>(2.3%)</u>
学生の学習成果の可視化を推進すべきだ	<u>(26.6%)</u>	<u>(51.1%)</u>	<u>(18.4%)</u>	<u>(3.7%)</u>
学習成果の測定を目的とした共通テスト（外部業者や学内で開発したテスト）の活用は組織的な教育改善に役立つ	<u>(13.1%)</u>	<u>(41.0%)</u>	<u>(33.9%)</u>	<u>(11.7%)</u>

問 5 文部科学省等の取り組みについて、先生はどのようにお考えでしょうか。

(○は1つずつ)	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
認証評価は教育改善に役立っている	<u>(10.5%)</u>	<u>(50.4%)</u>	<u>(31.3%)</u>	<u>(7.7%)</u>
教育改革のための文部科学省の補助金により現場の教育改善が進んだ	<u>(7.3%)</u>	<u>(42.0%)</u>	<u>(39.6%)</u>	<u>(10.4%)</u>
教育評価のための業務が負担になっている	<u>(37.4%)</u>	<u>(44.7%)</u>	<u>(16.3%)</u>	<u>(1.3%)</u>
国の教育政策の内容を大学執行部が一般教員に直接に伝えている	<u>(9.9%)</u>	<u>(45.3%)</u>	<u>(37.0%)</u>	<u>(7.5%)</u>
大学執行部の対応には学部や教員と対話的な姿勢がみられる	<u>(12.1%)</u>	<u>(48.6%)</u>	<u>(28.9%)</u>	<u>(10.2%)</u>
学部長は学部の声を反映しようと大学執行部とよく調整している	<u>(29.9%)</u>	<u>(52.1%)</u>	<u>(13.8%)</u>	<u>(4.0%)</u>
教育改革・評価のあり方は、授業改善に取り組む教員の創意工夫を活かせるものになっている	<u>(8.0%)</u>	<u>(47.8%)</u>	<u>(35.9%)</u>	<u>(7.8%)</u>

問 6 国の教学マネジメント（大学教育改善のための組織的取り組み）に関する政策についてお聞きます。

（〇は1つずつ）	内容を知っていて学 内での議論で参考に した	内容をある程度知っ ている	聞いたことはあるがよ く知らない	聞いたことがない
教学マネジメント指針（中央教育審 議会大学分科会）	<u>(12.6%)</u>	<u>(37.5%)</u>	<u>(35.8%)</u>	<u>(13.8%)</u>
分野別質保証のための参照基準（日 本学術会議）	<u>(8.1%)</u>	<u>(33.8%)</u>	<u>(38.9%)</u>	<u>(18.7%)</u>

問 7 先生はご自身の授業の質を向上させるために次のようなことをされていますか。

（〇は1つずつ）	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
授業外学習の確保を意識して授業設 計をする	<u>(30.0%)</u>	<u>(52.2%)</u>	<u>(15.3%)</u>	<u>(2.2%)</u>
アクティブラーニングをできるだけ導入する	<u>(32.7%)</u>	<u>(46.4%)</u>	<u>(18.0%)</u>	<u>(2.7%)</u>
学生の声を聞いて活かすようにしている	<u>(41.1%)</u>	<u>(54.4%)</u>	<u>(4.0%)</u>	<u>(0.2%)</u>
ディプロマポリシーを意識して授業設計 する	<u>(20.8%)</u>	<u>(59.2%)</u>	<u>(17.7%)</u>	<u>(2.0%)</u>

問 8 先生が自分の授業で学生に身につけてほしい能力は何ですか。

（〇は1つずつ）	とても重視	重 視	あまり重視しない	ほとんど重視しない
専門分野の知識・理解	<u>(57.8%)</u>	<u>(57.8%)</u>	<u>(3.6%)</u>	<u>(0%)</u>
幅広い教養	<u>(34.6%)</u>	<u>(54.2%)</u>	<u>(10.0%)</u>	<u>(0.9%)</u>
社会で役立つ汎用的な能力	<u>(45.8%)</u>	<u>(45.4%)</u>	<u>(7.7%)</u>	<u>(0.8%)</u>

問 9 先生は以下のような機会はどれくらいありますか。

（〇は1つずつ）	頻 繁 にある	時 々 ある	あ ま り ない	ほ と ん ど ない
学部・学科の教育目標やカリキュラムにつ いて教員間で話すこと	<u>(32.5%)</u>	<u>(52.2%)</u>	<u>(11.4%)</u>	<u>(3.4%)</u>
学部・学科の教員とお互いの授業について 話すこと	<u>(23.9%)</u>	<u>(54.9%)</u>	<u>(17.5%)</u>	<u>(3.4%)</u>
授業以外で学生と、学習について話すこと	<u>(28.7%)</u>	<u>(54.6%)</u>	<u>(14.2%)</u>	<u>(2.1%)</u>

問 10 今年度の授業期間中の典型的な 1 週間を振り返っていただき、総勤務時間に占める下記の活動に費やしたおおよその割合をご記入ください（数値記入）。実際と理想の両方について、全体で 100%となるようにお答えください。

	実際	理想
授業（学部、大学院、非常勤講師など）の時間	(25.6) %	(22.0) %
授業の準備に費やす時間	(20.7) %	(17.8) %
研究に費やす時間	(13.8) %	(30.4) %
学内の会議（連絡や資料作成を含む）に費やす時間	(22.5) %	(10.4) %
上記の活動以外で教員や学生との交流に費やす時間	(8.5) %	(10.5) %
学外の活動に費やす時間（社会サービス等）	(6.4) %	(7.2) %
その他（もしあれば）	(2.6) %	(1.7) %
総勤務時間	100 %	100 %

※合計 100%となる回答を抽出し、平均した値

問 11 先生が担当されている学科・コースのプログラムで以下のことは行われていますか。

(○は1つずつ)	十分実施している	ある程度実施している	あまり実施されていない	ほとんど実施されていない
プログラムが提供する授業と授業の関係について、教員が学生につながりを教えている	(16.8%)	(58.5%)	(21.0%)	(3.3%)
学部や学科・コースの共通科目の場合、授業の内容や方法を教員間で調整している	(15.9%)	(55.5%)	(22.9%)	(5.2%)
各自が担当する専門科目の場合、授業の内容や方法を教員間で調整している	(10.3%)	(49.2%)	(33.2%)	(6.9%)

問 12 先生は、以下に挙げる科目の担当や役職についてご経験がありますか。

	今年度経験 (縦に○はいくつでも)	以前に経験 (縦に○はいくつでも)
全学共通科目の授業の担当	44.1%	51.3%
全学の学務・教務委員の経験	32.3%	44.3%
学部の学務・教務委員長	21.3%	30.0%
共通科目のコーディネーターの役職の経験	20.1%	31.1%
学科長の経験	18.0%	24.6%
学部長の経験	16.2%	9.7%

※回答者全体に占める割合

公益財団法人大学基準協会大学評価研究所
 教学マネジメントに関する調査研究部会
 < 研究部会代表者 >
 部会長 大森不二雄（東北大学教授）
 < 調査担当責任者 >
 調査研究員 両角亜希子（東京大学教授）